

前回中期計画（案）の評価委員会意見に対する大学の考え方

中期計画項目		評価委員会意見	大学の対応・考え方
2 教育研究の質の向上に関する目標を達成するための措置	(1) 学生の受け入れに関する目標を達成するための措置	④の「第1期期間中」がどの期間を指すのか分からない。いつからいつまでを指すのか、分かりやすい記載にした方が良い。	2 ページ（新旧比較表のページ、以下同じ） 「第1期期間中」の表記を「本中期計画期間中」に改めた。
	(2) 教育に関する目標を達成するための措置	<p>【指標】 ・学部及び大学院における新カリキュラムの実施及びカリキュラムマップを全学科及び研究科単位で作成</p> <p>指標について、年度毎に指標があるもの、ないものが混在しており、指標の時点が分かりにくい。例えばこのカリキュラムマップの作成は何年間で行うのか。いつ時点で作成されていることを指標とするのか、分かるようにした方が良い。</p>	4 ページ 「カリキュラムマップの作成は、平成31年度及びカリキュラム変更の都度行う。」を追記した。
		<p>【指標】 ・専任教員数 55人</p> <p>専任教員数がなぜ増えるのか、理由を記載すべきである。</p>	4 ページ 専任教員S T比に変更し、学生の教育環境を充実させるためS T比を1.9以下とした。

<p>(3) 研究に関する目標を達成するための措置</p>	<p>指標に科研費の採択件数、採択費用などを設定してはどうか。</p>	<p>科研費の採択については、国等において審査があり、また限られた予算の中で採択件数、金額が決定されることから指標とはしない。</p>
	<p>多くの教員が科研費等に申し込むことが大切である。そのために、公的競争的資金への申込みを教員評価に組み込むことや、申請書類の作成訓練を行うことが取り組みが重要である。それらを是非数値的な指標にも入れてもらいたい。</p>	<p>4 ページ エに既に記載済み 10 ページ (1) -1 に応募申請率を記載済み</p>
	<p>科研費の審査結果を教員評価に反映させる仕組みがあると、動機付けになり、科研費に応募する教員数を増やすことにつながるので、検討してはいかがか。</p>	<p>9 ページ 教員人事評価において、既に実施済み</p>
	<p>「カ」にスマートネイチャーシティちとせ構想について記載があるが指標がない。定量的な指標、例えば取組の件数などを掲げた方が良い。</p>	<p>6 ページ 「(1) -2 S N C 推進活動の一環として市・企業等との情報交流会を年 4 回以上設定し、課題解決プロジェクトを立ち上げる。 (1) -3 地域課題の分析及び課題解決に向けた取組促進のための情報を年 4 回以上発信する。」を追記した。</p>

9 中期計画期間 において達成すべき 主な数値的目標	(1) 財務内容の改善 に関する主な目標	<p>不断の経営努力による健全経営を目指した結果、6年後の財務指標をどうするか、客観的な数字を書くべきではないか。</p>	<p>公立大学法人は、独立採算制でなく収益を目的としてはいない。必要な財源を設立団体が運営費交付金として交付される仕組みとなっている。指標を「予算の範囲内で収支均衡を図る。」と追記した。</p>
全体を通して		<p>指標はできるだけ数値化してもらいたい。</p>	<p>各項目の指標に、数値を記載することとし、目標達成の目安とした。</p>
		<p>スマートネイチャーシティちとせ構想、PWC、理工工房など、記載されている項目は異なるが互いに有機的に結び付いているものについて、地域貢献などの視点で、分かり易く図化してはいかがか。</p>	<p>別添のとおり、地域貢献事業を図化した。</p>

そのほか評価委員会から出された意見

- ・ 自校卒業生を科技大の中核（学長等）に入れるくらいの気概で将来的な大学の方針を定めてもらいたい。
- ・ 卒業時に技術士補となる資格が付与される、J A B E Eの認定の取得について、今後検討していただきたい。
- ・ 卒業生間のネットワークの広がり、情報のやりとりを考えると、科技大の専門分野に限ることなく、例えば経産省など様々な分野を就職先として捉えることも必要ではないか。